

センターニュースをお読みの皆様へ

島田療育センター整形外科外来では、診察だけではなく補装具作製の援助を行っています。補装具とはご本人の機能を補助するもので、立位・歩行を助ける下肢装具・靴型装具・足装具・立位台・歩行器や、姿勢・移動を助ける体幹装具・姿勢保持装置・車いすなどで、ご本人・ご家族と担当医・リハビリスタッフ・製作者が一堂に会して相談の上、利用者様に最

適なオーダーメイドを作製していきます。一定年数を経てサイズが合わなくなった、傷んでしまった場合は修理・再作製などのご相談を行っています。皆様が心地よく過ごしていただくための一助となっていれば幸いです。



リハビリテーション部長
高山 昌子

東京都e-パラスポーツ事業 に参加しました

e-パラスポーツ事業は「興味があっても身体的にできない」「移動や精神的な課題があり会場での参加ができない」との声を受けて、デジタル技術を活用し、簡単なコントロール操作で重度の障害があっても参戦できる「Ude-Sports」を開発しました。同時に、広くe-パラスポーツを楽しめるように、参加の機会を提供している東京都の事業になります。

当センターでは、この事業により1月10日に東京ビッグサイトと都内の福祉施設をオンラインで繋いだ対戦交流会に参加しました。会場の盛り上がり味わいつつ、利用者様が一生懸命に参戦する姿が印象的でした。また、日々の活動でe-パラスポーツを楽しめるように3ヶ月間「UDe-Sports」の各種機器を借りる

ことができました。しばらくはスポーツの熱で寒さを吹き飛ばす日々が増えそうです。

(療育部 清水 信夫)



ホールに集まってオンライン交流開始!



都内の会場とオンラインで繋がりました。



当センターの代表選手の番がきました。



リレーの競技では一位も取りました!

タンゴドラムコンサート を開催しました

12月22日タンゴドラムの演奏者である勝見愛様をお迎えし、コンサートを開催しました。季節にちなんだ童謡とクリスマスの曲に加え、ジブリ映画の名曲をタンゴドラムならではのアレンジで披露いただきました。タンゴドラムの持つ独特の響きが共鳴し、普段味わえない雰囲気のあるコンサートになりました。コンサート後はタンゴドラムを貸していただき、職員・利用者共に楽しみながら奏でることができました。

(療育部 清水 信夫)



デイケアセンター

幼児部クリスマス会

12月18日、幼児部のクリスマス会を厚生棟で行いました。午前中は利用者様のお出し物で「ぐりとぐらのクリスマスケーキ」の劇を行いました。かわいい衣装でぐりとぐらに扮した利用者様が、保護者の方が見守る中、物を運んだり、入れたり、ひもを引っ張ったり自分の力で一生懸命頑張ってくれ、「こんなことができるようになったんだな」とみんなの成長を感じられる素敵な時

間になりました。午後は職員のお出し物やサンタトナカイも登場し、クリスマスのお雰囲気を盛り上げてくれました。久しぶりにみんなで集まることができ、楽しいひと時を過ごすことができました。

(デイケアセンター 赤松 明美)



デイケアセンター

青年部クリスマス会

午前の部では「プレゼント運びゲーム」を行いました。紙の上にプレゼントを載せて、利用者様、ご家族、職員が協力して運びました。早くゴールできるかは、チームの団結力が重要です。ご家族の真剣な表情が見られたり、笑顔や笑い声が聞かれる中、熱戦が繰り広げられました。続いては職員のお出し物です。ダンスやけん玉など、練習の成果も発揮され、厚生棟内が笑いで溢れました。午後は恵泉女学園大学のサークルで「クプカ」さんの紙芝居と「キララ」さん

のクリスマスコンサートが行われました。クプカさんの元気な声に、キララさんのコンサートでは生の演奏と歌の迫力に、身体を揺らして楽しんだり、静かに聞き入ってみたり、みなさんそれぞれに素敵な時間を過ごしました。

(デイケアセンター 佐竹 陽子・浅野 順子)



恵泉女学園

クリスマスの奉仕活動

12月20日、「障がいを知り・理解していくこと～社会と私たち一人ひとりができること～」をテーマに恵泉女学園中等部より学生と教員を合わせて11名の方々がいらっしゃいました。恵泉女学園では「与えられるクリスマス」ではなく、「分かち合うクリスマス」という心で、50年以上にわたり奉仕活動を続けています。生徒会が自主的に始めた行事で、事前に勉強会を行い、社会福祉について学びを深めてから、有志グループにより訪問しているそうです。

今回は「車椅子清掃を通して、利用者様の生活をイメージしてみませんか」と提案してみました。生徒の皆さんのひたむきに取り組む姿に清々しい気持ちが湧きました。

(療育部 清水 信夫)



年末年始のお散歩スポット

年末年始のお出かけ先として、厚生棟のロビーにイベントで活躍した様々な作品を飾り、展示スペースを作りました。利用者様の力強いちぎり絵、迫力のある宇宙人、海外にいるかのようなフォトスポット、お賽銭箱や干支飾り、本物そっくりのスイーツ、大きなパンダ、そしてボランティアさんによる折り紙飾りや特大の年賀状等々、沢山の作品が集まりました。利用者様が作品の前で視線を動かし、楽しんでいる姿を見ることができました。

(療育主任 宮沢 直美)



開催報告

東京多摩版 災害対策はじめの一步
～ハンディキャップのある方々の命を守る～

2024年12月21日にパルテノン多摩にて「東京多摩版 災害対策はじめの一步」と題して、ハンディキャップのある方々の災害への備えを考える勉強会を開催しました。講師には、岩手を中心に全国で在宅医療患者様や被災地支援を通じて様々な防災システムや機器の開発、人材育成、自治体と協働した災害に強い地域づくりを進めている笠井健氏にご講義をいただき、後半では少人数に分かれて災害を想定したグループ討議を行ないました。多摩市長も駆けつけてくださり、多摩市社会福祉協議会の森久様や国立成育医療研究センターの中村医師からの話題提供や、笠井氏ご持参の災害グッズも展示・解説もあり、充実の内容となりました。

前半の講義では、東日本大震災以降、最近では能登半島震災等、全国各地で支援された被災地の実情や日頃の備え（備蓄、電力の確保、居住環境の整備、避難先の検討等々）についてご講義いただきました。グループ討議では皆様が積極的に参加して下さり時間が足りないくらいでしたが、その後各グループから出た意見や質問に回答する形で、笠井氏から実践的な方策や目から鱗の有益な情報を盛沢山いただきました。

災害時の衛生面の問題（トイレ、入浴等）や感染症蔓延の危険性、ライフライン（特に電力）や薬が命に

直結する事案、避難先の選択（移動できるか、行った先が生活できる環境か、自宅避難が良いのか）等々多岐に渡るお話から、障害や疾患があり個性の高い方々の災害対策を考える際には、かなり前もって個々や地域に応じた検討を重ねていくことが重要と痛感しました。またそれをご本人・ご家族だけに任せるのではなく、地域とその住民一人ひとりが我が事として一緒に取り組むこと、そしてやはり訓練が重要！と再確認しました。実際にやってみることで、何が足りていなくて、何が必要なのか等、より具体的な対策を講じられるのが訓練です。

最後に笠井氏から「いつか来るとわかっていたのに何もできなかった、と後悔しないようにしてほしい。そのために『いつまでに〇〇をやる』と決めて、『今から、すぐ』行動に移して行ってほしい』という切実なメッセージをいただきました。この言葉を胸に、今後も地域で一緒に取り組んでいきましょう！

（支援部 市川 香織）



お子様の発達について、こんなご心配はありませんか？

このコーナーはネットワークしまでで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

たくさんほめてくださいと言われるのですが、うまくほめられません。

A

ほめるという行為は、“これをしていると、みんなが見てくれてうれしい”とか“またやってみようかな”と、お子さんが喜び、やる気や自信を引き出す手がかりとなります。ほめる行為は言葉だけではありません。好きな遊びやスキンシップを提供すること、笑顔での「ありがとう」の一言も、お子さんはほめられたと感じるかもしれません。また、たくさんほめるためには、結果や成果だけではなく、自分から着替え始めた、悪戦苦闘しながら靴下をはこうと頑張っている、左右が逆でも初めて一人で靴が履けた、最初は嫌がっていたけれど、

最後の1個だけはおもちゃを片付けたなど、自分からやろうとした、あきらめずに取り組んでいる、100パーセントの完成度ではなくてもやり遂げた、気持ちを切り替えて少しでも取り組んだ、といったお子さんの頑張りに注目してみましょう。このような頑張りをお子さんに見つけ、「〇〇しているんだね」と、お子さんに笑顔で話してみるところから始めてみてはいかがでしょうか。（臨床心理科 公認心理師 菊地 文）



寄付・寄贈のご報告

ご寄付 飯野順子様より660万円、出口博俊様より500万円、税理士法人 古田土会計様より200万円、株式会社プリンセススクウェア様より100万円、河幹夫様より100万円のご寄付をいただきました。

ご寄贈 島田療育センターを守る会様より、利用者様へはクリスマス会のデザートとして、「ル・ジャルダン・ブルー」のクリスマス・ムースを頂きました。また職員へは、

「ぐりーんぴーす工房」のクリスマス・クッキーを頂きました。



感染対策研修を開催しました

11月に2024年度 第2回院内感染対策委員会をオンラインで開催しました。今回は令和3年度障害福祉サービス等報酬改定において事業者に義務付けられたBCP（事業継続計画）の周知を目的とし「BCPとは何か？」をテーマにした動画を視聴し、その後、当センターのBCP「感染症発生時における業務継続計画」を一読してもらいました。さらに、受講後のアンケートで現BCPに関する意見や、過去の感染症発生時を振り返っての改善点等を募集しました。これにより、今後の感染症発生時の業務継続に向けた備えを強化していきたいと思えます。

(院内感染対策委員会 中野 智子)

ハラスメント研修を開催しました

11月から12月末にかけて、学術研究・研修部主催のハラスメント研修を実施しました。テーマは「ハラスメントにあたる行動・あたらない行動」で、ハラスメントにはどのようなものがあり、何がハラスメントにあたるのかなどを再確認するための内容でした。研修はeラーニングシステムを通して講義動画を視聴し、テストに答える形式を採りました。職員一人ひとりがハラスメントに対して正しい知識を持って日々の業務にあたるようになればと思います。(学術研究・研修部 神田 水太)

虐待防止研修を開催しました

全職員を対象に、研修視聴サイトしまナビによる令和6年度1回目の研修を実施しました。以下の内容で、受講期間は10月29日～12月1日でした。

「MAPCAP研修2024～施設内虐待防止に向けて～」

(虐待防止マネージャー 美保主任/下村主任)

視聴後、課題レポートに解答し、受講終了となりました。日々の何気ない言動が、不適切な支援につながらないよう十分気をつけたいと思えます。

(MAPCAP委員会 宮田 雅美)

地域療育等支援事業のご案内

① 外来療育等支援事業(療育相談)

当センターにて障害、発達に関するご相談に応じます。

② 施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れている地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③ 訪問療育等支援事業(訪問相談)

地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。

窓口は支援部 TEL 042-374-2101(直通)

季節の彩り



療育部の掲示板上にバレンタインデーの飾りが広がり、和やかな空間になりました。季節を通じて、センター内の各部署に見かける装飾は生活を彩り、心の栄養となっています。

発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 島田療育センター
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は
こちらから

